

第 17 回 茨城県少子化対策審議会 開催結果について

- 1 日 時 令和 7 年 2 月 10 日（月）14：40～16：20
- 2 場 所 茨城県開発公社 4 階大会議室
- 3 出席者 審議会委員 13 名（欠席 3 名）、臨時委員 7 名（欠席なし） ※別添名簿参照
事務局（県）市村子ども政策局長、楊箸少子化対策課長
菊地子ども未来課長、平根青少年家庭課長ほか

4 結 果

番号	事項	結果
議事(1)	・「子ども・子育て分科会」、「要保護児童対策分科会」及び「茨城県青少年健全育成審議会」の結果について	・原案どおり承認。 ・審議会資料について事務局より説明後、意見発言があった。
議事(2)	・「茨城県こども計画（案）」及びパブリックコメントの結果について	

5 委員の発言要旨（主なもの）

議事（2）「茨城県こども計画（案）」及びパブリックコメントの結果について

○妊娠・出産に関して、一切費用が発生しないような取組をして欲しいというのは、色々なところからお聞きするご意見。保険適用になれば、出産費用の負担がなくなると思う方も多いかもしれないが、保険適用ということは 3 割負担になる。茨城の場合は妊産婦を対象としたマル福があるが、所得制限があるため全員ではない。現実的には色々補填してあげなければならないと思う。

○出産後の 1 か月検診では、親に対し「こどもに対する困りごとがないか」との間診を行っており、保健師や病院が困りごとを吸い上げられるような取組となっている。5 歳時検診では、小学校に入る前、発達障害傾向が見つけられる時期にこどもの困りごとをすくい上げ、こどもが安心して学校に通えるようにしている。市町村事業だが、県でも市へサポートやアドバイスをして欲しい。

○早すぎる性教育が問題になっているとの意見があったが、それは誤解ではないか。海外では、人権教育という形でこどもの年齢に応じた包括的な性教育が行われている。

- 今、自分の性について、明らかにする方が出てきていて、こどものときから自分の性について違和感があったり、それを全部言えなかったりということがあると聞く。こども計画として、性の多様性を尊重していくといった記載は、ぜひお願いしたい
- 外国人排除の意見があったが、日本の世の中は、もう外国籍の方がいないとやっていけない。多様性という意味では、国籍も含めて、文化などに配慮した取組が必要。
- 虐待対応件数が全国的に増加しており、数だけ見ると虐待自体が増えているように見えるが、実際は違う。定義が変わっていたり、面前DVが含まれるようになったのが原因。
児童相談所の人員が増加されていたり、窓口相談のハードルが下がっているのはポジティブな部分。世間の人が見たとき正しく分かるように、定義の変更等に触れないと、子育てする側が苦しくなってくる。
- 特別支援学校の保護者によるおしゃべり会に参加したとき、グループホームなど、卒業後の施設の空き状況が分からずに苦労しているということが話題に上った。今後、自治体で空き状況を把握し、公表していくことが必要になってくるのではないかな。
- 少子化が進む中、保育所や認定こども園では、保育の質の向上にシフトしている。魅力ある保育所として、先生の職場環境の改善やネットで申し込み等を可能にするDX化、だれでも通園制度や日本版DBS導入に向けた取組検討など、変化がある状況。
- 今回のこども計画の特徴として、こども向けに「やさしい版」を作成したことが挙げられる。こどもに伝えるのは、大人に伝えるよりも難しい。取組3の「貧しい状況に生まれ育っても」や「よい保育」といった表現は、もう一度推敲が必要。
- パブリックコメントの仕方として、「実名や電話番号を記載するのはハードルが高い」と考える子たちが非常に増えている。フリーで入力できるようにするなど、若い方たちがより意見しやすい環境づくりを検討していくことが必要。